



六甲山から見た神戸の街

第49回テーマ：
都市山六甲山

講演内容

- ①日本一の都市山六甲山
- ②交流の場としての六甲山
- ③六甲山に特徴的な生物

実施日：平成19年4月21日（土）

午後1時～3時45分

場 所：六甲山自然保護センター

レクチャールーム



講師：服部 保 さん
プロフィール

1948年兵庫県出身。神戸大学大学院自然科学研究科博士課程修了、学術博士。兵庫県立人と自然の博物館自然・環境再生研究部、植生創出研究グループ研究部長。

新緑の季節が到来

4月に入り、六甲山自然保護センターが開館しました。六甲山に上る途上で多彩な新緑を目にして、春を実感しました。午前中のボランティア整備には13名が参加されました。近畿自然歩道に覆いかぶさったツル植物を手入れし、景観が明るくなりました。

待望の『六甲山物語1』が大好評

市民セミナーの36回分をまとめた『六甲山物語1～六甲山を深く知る36話』が完成しました。124ページの体裁で、今までのセミナーを歴史や文化、生物などの6つのカテゴリ別に再編集しています。会場でお配りし、皆さんに大好評でした。



セミナー会場でお配りし、好評でした

服部さんは日本一をつくる名人

市民セミナーでは兵庫県立人と自然の博物館の服部さんにお話いただきました。服部さんは六甲山の植生研究の第一人者としてご活躍です。「日本一」というキャッチフレーズをつくられるのが得意で、兵庫県の各地で「日本一」の言葉を生み出してこられました。「日本一の里山」や「日本一の分水界」など、今までにいろいろな「日本一」の名付け親になっておられます。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

六甲山は日本一の都市山

服部さんは六甲山の特色は里山でも都市林でもなく、「都市山」で、100万都市の背後の1000m級の山として日本一の都市山だと解説されました。六甲山は、身近な自然であるからこそ、環境学習の場として最適な場所であり、都市に住む人のための山としての利用を考えていく必要があると強調されました。

整備活動にも太鼓判をいただきました

植生管理の分野でもご活躍の服部さんから、活用する会の整備活動についてもアドバイスをいただきました。「ササ刈りやツル植物の手入れなどはどんどんやってください。」と、我々の活動に太鼓判を頂きました。活動を進める上で大いに励まされました。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 久門田 充 さん

私は神戸生まれでも育ちでもありません。初めて神戸の街に入ったときまず目に映ったのは、ひしめく家々と工場を懐に抱いた穏やかで悠々とした六甲山でした。まさしく服部先生のネーミング通り「都市山」という第一印象でした。



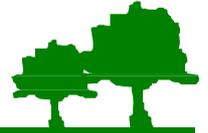
この再生された緑の中で、生物同士が交流し、市民交流の場となり、また環境学習の場所として市民一人一人が認識すれば、この都市山はよりよい方向へ向かうことは間違いないと思いました。

【助成金をいただいている機関】

コベルコ環境保全基金、セブン-イレブンみどりの基金
公益信託自然保護ボランティアファンド
ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金



第49回テーマ：都市山六甲山



第49回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00～13:05
2. 講演：13:05～14:10
3. 休憩：14:10～14:20
4. 質疑応答：14:20～14:55
5. 交流会：14:55～15:45

講演

- ①日本一の都市山六甲山
- ②交流の場としての六甲山
- ③六甲山に特徴的な生物



セミナーには35名が参加されました

講演の挨拶(服部保さん)

私は「日本一」をつくるのが得意です。兵庫県では「日本一の里山」や「日本一の分水界」をつくってきました。六甲山は「日本一の都市山」だと思っています。今日は「都市山」を中心にお話したいと思います。



服部さん

講演内容

1. 日本一の都市山六甲山

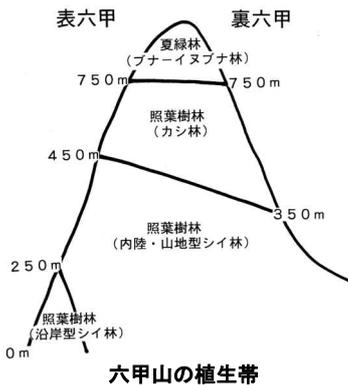
■六甲山の特色

六甲山の特色は何なのか、他の山と何が違うのかを考えて「都市山」キャッチフレーズを思いついた。「都市林」という概念もあるが、皇居や万博公園のように、都市に囲まれているような林ではない。六甲山は山であり、それも100万人以上の人口を抱えるのが特徴になっている。「都市」と「山」をひっつけて「都市山」、これが一番の特徴ということから出発すると六甲山を理解しやすい。

■多様な環境のある六甲山

六甲山には、暖温帯と冷温帯という2つの気候帯が存在する。同じく都市山の生駒山は海拔が600mで、山全体が1つの気候帯の中に入る。六甲山は1000m級で気候帯が2つあるのは大きな特色になっている。

六甲山の山頂は札幌ぐらいの気候の冷温帯であり、夏緑林帯になっている。下の方は照葉樹林帯で、上と下で降水量は倍程度違う。これによって多様な生物が残りうる条件ができた。



■六甲山の植生破壊

六甲山には徹底的に人の手が入ってきた。弥生時代以降に奥山から里山になり、江戸時代には里山からハゲ山になった。1904年から植林がはじめられ、緑の山になったが、木を切らなくなったので、現在は放置林になってしまった。林内には照葉樹林が戻ってきたが、アラカシやヒイラギなど10種程度で構成される単純な照葉樹林になっている。

■温暖化で兵庫県の瀬戸内側ではブナは絶滅する

日本の原植生図を見ると、六甲山だけにブナ林が出てくる。六甲山は1000m近くあるのでブナ林があるが、750mしかなかったらブナ林はなかった。1. 2度気温が上昇すると、六甲山のブナの分布域はなくなってしまふ。

六甲山上のブナはわずか130本しかない。イヌブナは2000本で、このまま温暖化が進むと、間違いなく絶滅するだろう。

■日本各地の都市山

「都市山」は私の造語だが、定義として100万人以上の人口があること、1000m級の山であることとした。大都市の背後に屏風のようにある山が都市山のイメージだ。

日本各地の代表的な都市山は4つ。六甲山(931m)、長崎の稲佐山(322m)、函館の函館山(333)、札幌の藻岩山(531m)である。どれもいい山ではあるが、六甲山は他の山に比べて広がりがあり、どこでも夜景が見れる。日本一の都市山であることは間違いない。



←稲佐山(長崎)



函館山(函館)→

2. 交流の場としての六甲山

■兵庫県は生物交流の通路

日本の生物分布は脊梁山脈によって日本海側と太平洋側にわかれている。この中央分水界は、長野県では2~3000mの標高があり、生物の分布の障害となる。兵庫県の氷上回廊は最も標高が低く、95m程度になる。寒さに耐えられない生物にとって、兵庫県は日本海側と太平洋側を行き来できる日本一の通路になる。

■六甲山のブナは氷期の生き残り

今から2万年前の氷期には三宮にも夏緑林があった。六甲山は亜高山・亜寒帯の針葉樹林があった。照葉樹林は紀伊半島南端にしかなかった。氷期が終わって暖かくなると瀬戸内側の低地のブナは絶滅して、紀伊半島南部から照葉樹林帯が北上して広がっていった。ブナは標高の高い六甲山頂部だけに残った。六甲山のブナは日本海側のブナに近い。



イヌブナ林(六甲山)

■六甲山は東西南北の生物移動の中継地

日本海側から南下してきたのはユキグニミツバツツジ、トキワイカリソウ、タムシバなど。紀伊半島南部から北上したのはカナメモチ、モチツツジ、ヤマモモなど。近年では港から侵入したキベリハムシ、マツノザイセンチュウなどの外来生物が六甲山を拠点に分布拡大している。まさに六甲山は生物の交流の通過点となっている。

3. 六甲山に特徴的な生物

植物：アリマグミ、アリマウマノスズクサ、アリマコスズ、マヤラン、シチダンカ(幻のアジサイ)、タムシバなど。昆虫：マヤサンオオムシ、マヤサンコブヤハズカミキリなど。



ユキグニミツバツツジ
(撮影:久保絰一氏)



タムシバ
(撮影:久保絰一氏)

質疑応答

植物の移動ってどういう方法? : 風散布型・鳥散布型・重力散布型がある。鳥散布の場合、鳥が運ぶ距離はたかだか100mぐらい。ゆっくり広がっていくことになる。

近畿自然歩道の整備をおこなう上で留意事項がありますか: 一度手のついた自然の手入れをするのは重要。まずはササ刈りをして、それからツル植物の手入れをした方がいい。できるところだけやった程度では絶滅するわけではないので問題ない。

まとめ(服部さん)

六甲山は百数十万の市民にとっては環境学習に最適の場だと思います。素晴らしい自然のある大雪山や知床は環境学習の場にはなりません。環境学習の場は日常性の中になければなりません。日常性の中にある六甲山は、環境学習、自然学習の場として非常に大きい存在です。「都市山」という概念を用いることで、六甲山の特徴がはっきり見えてくると思います。

参加の感想 岡谷 恒雄 さん

「都市山」という言葉を初めて聞き、更に全国の都市山の中で六甲山が日本一であるというお話は、誠に新鮮で六甲山の麓に住まい、この山に興味を持つ者として改めて六甲山を誇りに思った次第です。又六甲山を中継地として中央分水界(氷上回廊)を越えて日本海側と太平洋側の植物が移動したというお話などはまさに六甲山の魅力の「再発見」にふさわしいものでした。



事務局より

六甲山の植生の権威である服部さんから「都市山六甲山」というコンセプトを示していただきました。当会の「六甲山を市民の庭に」というテーマにとっても大きな裏づけとなりました。

◆参考・配布資料など

- ・スライド
- ・レジュメ
- ・『“都市山”六甲山の植生管理マニュアル』(発行:神戸県民局・神戸農林水産振興事務所)

植生管理マニュアル



兵庫県立人と自然の博物館

研究部長 服部 保

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目

TEL: 079-559-2001 FAX: 078-559-2007

◆参加者の声~アンケートより~

- ・六甲山が都市山として日本一であることが理解できた。
- ・都市山の命名、定義が大変興味深かった。

◆参加者: 35名(順不同・敬称略)

服部 保	村上 定広	浅井 審一	八木 浄
岩木美寿雄	山田 良雄	長谷川友彦	森 康博
松井 光利	米村 邦稔	山本 晃	赤坂 武敏
中務 勝子	久門田 充	橋本いくゑ	岡谷 恒雄
香西 直樹	尾崎 尚子	竹田 宏	齋藤 忠行
佐藤 淑子	中村 公一	久保 広昭	明石文史郎
松本 利一	佃 敬之佑	小野 律子	北山健一郎
中川貴美子	川村 慶一	桑田 結	寺田 啓
堂馬 英二	堂馬 佑太	南 真由美	